

今後１０年を見据えた
高岡市における小中学校の配置について

令和２年２月１９日
高岡市教育委員会

1 学校の望ましい配置と小中一貫教育の推進

今後 10 年を見据えた高岡市における小中学校の配置については、平成 31 年 2 月に基本的な方向を取りまとめ、次代を担う子供たちの教育充実の観点から、学校の一定規模を確保するとともに市内全域の配置バランスに配慮すること、また、再編統合を進めるにあたっては、子供たちの連続した成長を切れ目なく支援する高岡ならではの小中一貫教育を推進することとした。

2 今後 10 年を見据えた小中学校の配置

この基本的な方向に基づき、中学校については現在の 12 の中学校区を基本とし、五位中学校区の石堤小学校、東五位小学校、千鳥丘小学校の 3 小学校については、石堤小学校と東五位小学校を令和 2 年 4 月に、東五位小学校の校地で統合した後、令和 6 年 4 月に、五位中学校の隣接地において千鳥丘小学校を加えた 3 小学校の統合を完了する方向で既に準備を進めており、校名を五位小学校と定めた。

また、国吉中学校区においては、令和 2 年 4 月に、国吉小学校と国吉中学校を現在地において県内初の義務教育学校に改編し、本市における小中一貫教育の推進校として先導的な役割を担うこととした。校名を国吉義務教育学校とし、校章を新たに定めるなど開設準備を進めており、9 年間の独自の教育課程を展開することとしている。

これに加え、高岡西部中学校区、高陵中学校区、伏木中学校区、中田中学校区においては、以下に示すように小学校の再編統合や中学校との校舎の併設や一体化を進め、学校の再編統合を契機に小中一貫教育の環境を整え、一層の教育充実を図ることとする。

ア 高岡西部中学校区

高岡西部中学校区においては、川原小学校、西条小学校、横田小学校の 3 小学校を再編統合し、その後に、統合新小学校と中学校を併設して小中一貫教育の一層の充実を図る。

統合新小学校の開設場所については、県立高校の再編統合により令和 4 年 3 月に最後の卒業生を送り出す高岡西高校の敷地や校舎を、隣接する西条小学校とともに一体的に活用することとし、令和 6 年 4 月には対象 3 小学校による統合新小学校を開設できるよう、実現に向けて高校を設置する県との調整を進める。統合新小学校開設後、令和 9 年 4 月を目途に、同じく高岡西高校の敷地や校舎を活用して高岡西部中学校を移転併設する。

イ 高陵中学校区

高陵中学校区においては、平米小学校と定塚小学校の2校を再編統合し、高陵中学校と小中一貫教育を推進する。

統合新小学校の開設場所、時期については、平米小学校と定塚小学校を令和4年4月に、定塚小学校の校地で統合した後、現高陵中学校において、新小学校の校舎を併設することとし、令和8年4月の開設を目途に準備を進める。

ウ 伏木中学校区

伏木中学校区においては、太田小学校、伏木小学校、古府小学校の3小学校を再編統合し、伏木中学校と小中一貫教育を推進する。

統合新小学校の開設場所、時期については、今後の児童生徒数の推移を考慮しつつ、現伏木中学校において、新小学校の校舎を併設することとし、遅くとも令和10年4月の開設を目途に準備を進める。

エ 中田中学校区

中田中学校区においては、1中学校、1小学校であり、中田小学校と中田中学校を再編統合し、小中一貫教育を推進する。

学校の開設場所、時期については、現中田小学校において、中田中学校を移転併設することとし、令和9年度を目途に学校の整備に向けた準備に着手する。

3 今後の進め方

再編統合の実施にあたっては、保護者や地域の方々、有識者等からなる新たな学校づくりに向けた協議の場を設け、関係者の理解を得ながら実施計画を策定するとともに、計画の着実な推進に努める。

高岡市教育将来構想検討会議は引き続き実施計画の円滑な策定及び計画の着実な推進に向けて助言を行う。

4 その他の検討事項

再編統合により通学距離が遠くなる場合への配慮や、通学区域の弾力的な運用等について検討する。

少子高齢化や人口減少等が進む中、今後学校が地域の中でどのような役割を果たしていくべきか、様々な分野と連携し、より幅広い観点から検討する。